

2月 1日～15日の国内外外国為替市場動向

	為替市況	主要経済指標など	主要発言など	為替レート		
				ドル円	ユーロ円	24H
05/02/01 (火)	東京はおおむねドル高、G7で人民元に対する切り上げ要求が出ないとの見方がドル買いを支援。欧米は一転してドル小幅安、ドル買い意欲は強いものの、利食い思しき売りに上値を抑制された。	・テラー-米財務次官が今週中にも辞任、後任は選対本部幹部のティム・アダムズ氏 ・1月の米ISM製造業景況指数56.4	財務省幹部「人民元の柔軟性は必要だが押し付けるものではない」 ・谷垣財務相「米経常赤字さらに膨らむと世界経済の懸念材料となる」 ・欧州G7筋「声明の為替部分はボカランから変更がない」	103.69 103.48 104.08 103.66	135.19 135.04 135.56 135.24	寄付 安値 高値 終値
05/02/02 (水)	東京は揉み合い、ただ円は加スで売られ易く、ユーロ円などで小幅安。一般教書にらみで売買も少なめ。欧米ではユーロ安が進行、利食い売りの勢い、この日も止まらず、米利上げは予想通りでノイバラ。	・豪州が政策金利を据え置き ・米国が25BPの政策金利引き上げ、声明は「慎重なヘースでの緩和解除方針を継続」と前回11月とほぼ同じ	・テラー-財務次官「中国はより柔軟な為替制度に向けて必要な措置をとっている」 ・シュマー-米上院議員などが中国にドルヘッジ緩和を求める法案提出へ	103.66 103.34 104.08 103.58	135.24 134.89 135.79 134.93	寄付 安値 高値 終値
05/02/03 (木)	東京は円独歩安。外債絡みと思しき加スでの売りに加え、三井住友報道を受けた株安を海外勢が嫌気。欧米は円安に端を発したものの、その後ドル高へ。ユーロ/ドルは1.30ドルを割り込み一段安となった。	・アッシュ大統領が一般教書演説 ・三井住友銀がUFJとの経営統合断念方針、との一部報道あり ・ECBが政策金利を据え置き ・1月の米非製造業景況指数59.2、12月の米製造業受注0.3%	・トリシェECB総裁「最近のユーロ急上昇は歓迎出来ない」 ・周中国人民銀行総裁「元の問題についてG7で議論する見込み」 ・欧州G7筋「ユーロ高はもはやそれほどの懸念要因ではない」	103.58 103.56 104.73 104.45	134.93 134.89 135.80 135.52	寄付 安値 高値 終値
05/02/04 (金)	東京はドル強保ち合い。夜半以降の重要材料をにらみ、売買は総じて手控えムード。欧米はユーロが再び急落。米経済指標の悪化したことでドル売りが一時進行する局面も見られたが続かず。	・スノー-米財務長官が風邪でG7欠席 ・12月の景気動向指数40.0% ・1月の米失業率5.2%、同非農業者雇用数14.6万人、同ミシガン消費者信頼感指数確報値95.5	・露中銀が通貨バスケットでユーロの比率を徐々に引き上げ、との一部報道 ・FRB議長「市場の力により米経常赤字は安定、縮小に向かう」 ・福井日銀総裁「過度の為替変動は望ましくない」	104.45 103.28 104.62 104.00	135.52 133.74 135.62 133.89	寄付 安値 高値 終値
05/02/07 (月)	東京は円が小幅安。半ば予想通りとは言え、G7に対する失望から人民元や円が冴えない。欧米は円安と言うよのドル高の流れ。米赤字縮小見通しに加え、中東和平期待などもドル買いに寄与。	・1月末の外貨準備高8409億ドル、前月比 35億ドル ・ライズ国務長官がバレスチナを訪問 ・予算教書演説で米国は2010年に財政赤字が今年から半減へ	・週末のG7声明で為替の文言は前回から据え置き ・周中国人民銀行総裁「為替制度を変更する前に多くの準備が必要」 ・細川財務次官「G7の基本的な考え方に基づき今後も対応」	104.00 103.92 105.02 104.82	133.89 133.56 134.52 133.72	寄付 安値 高値 終値
05/02/08 (火)	東京は再び円安。旧正月前でアジア勢の参画は少ないなか、人民元安に円も連られた。欧米で円は続落。薄商いのなか、前日に続き中東和平などが対円、ユーロでのドル買い要因に。	・イスラエルとバレスチナが停戦合意、との一部報道あり	・バズFRB理事「一部の国がヘッジ制を取っているためドルの方向性予測は困難」 ・仏財務相「ドル相場の上昇を歓迎」 ・スノー-財務長官「中国は大きく前進しているが米国は満足していない」	104.82 104.76 105.94 105.82	133.72 133.63 135.22 135.05	寄付 安値 高値 終値
05/02/09 (水)	旧正月でアジア市場の多く休場。東京も商い閑散。ただ、そのなかドルロングの落としがやや活発。欧米は再び円小幅安。とくに加スで冴えない。ドル金利の上昇からドルは全体的に強め。	・アジアが旧正月 ・サッカーのアジア最終予選始まる、日本はホームで北朝鮮と激突、2-1で勝利	・ジョンハリー「FRB議長の本音は経常収支を楽観していない」 ・アトランタ連銀総裁「FOMC声明の『慎重なヘース』との表現が近く必要なくなる時期が来る」	105.82 105.30 105.96 105.60	135.05 134.63 135.49 135.23	寄付 安値 高値 終値
05/02/10 (木)	前日同様、アジアは休場が多く動意に乏しい。終盤北朝鮮がらみのニュース飛び込むも影響は限定的。欧米でドルは一時急騰。対円では107円近くまで値を上げる局面も、ただユーロ/ドルは行って来い。	・12月の機械受注 8.8% ・12月の米貿易赤字 68.5億ドル	・北朝鮮が6ヶ国協議を無期限中断すると発表、また「自衛のために核兵器を建造した」と初めて核兵器製造認める ・メリアリス連銀総裁「ドル安によるインフレの影響は見られない」	105.60 105.34 106.84 105.82	135.23 135.14 136.34 136.22	寄付 安値 高値 終値
05/02/11 (金)	前日までの旧正月に続き、この日は東京が休場となり、依然として商い手控えムードが強い。欧米も小動き、NYの朝方こそ調整に絡んだ動意も見られたが一巡後は風症状。	・東京市場が休場	・SF連銀総裁「当面は緩やかなヘースでの利上げが可能」 ・ジョンハリー「FRBは中国のヘッジ制変更を楽観視していない」	105.82 105.47 105.92 105.76	136.22 135.79 136.32 136.09	寄付 安値 高値 終値
05/02/14 (月)	東京はドル安。対円を中心とした展開だったが、その後は対ユーロでも連れ安に。米債の利金売りも？欧米はユーロが小幅高。フィアット合意に絡む需給玉の噂も、ただ1.30ドル手前では頭も重い。	・12月の経常収支1兆6160億円、1月の対内外証券投資2兆9206億円の資金流入 ・米GMがフィアットに15.5億ユーロ支払うことで合意成立	・細田官房長官「目下為替レートは比較的安定している」 ・内閣府レポート「実質実効レート、対米ドル相場ほど円高ではない」 ・バルデモスECB副総裁「中期的インフレは高まっている」	105.43 104.64 105.58 105.06	135.72 135.39 136.38 136.34	寄付 安値 高値 終値
05/02/15 (火)	北朝鮮絡みの報道などから一時上下に振れる局面も見られたが大勢に影響なし。おおむねレンジ。欧米は一転ドル安。対米証券投資などは良好だったが予想通りと受け止められ調整が進んだ。	・第4四半期GDP 0.2%、同ユーロ圏GDP0.2%、2月のZEW景況調査35.9 ・2月のNY連銀製造業景況指数19.19、12月の対米証券投資613億ドル、1月の小売売上高 0.3%	・北朝鮮日報「北朝鮮が長距離ミサイルを開発」 ・仏中銀総裁「ユーロ/ドル相場はファンダメンタルズに沿った限界にある」 ・フィッチ「日本国債の格上げ、向こう3～4年間は難しい」	105.08 104.28 105.36 104.39	136.35 135.54 136.59 135.98	寄付 安値 高値 終値

* ご質問などはEメールにてお願い致します。アドレス info@fx-newsletter.com まで